

事業報告書

平成30年度

社会福祉法人 福鳳会

社会福祉法人福鳳会

概況及び基本理念

<はじめに>

基本理念の下、敬老愛護、お客様ファースト実現のために必要な職員資質向上への取り組みを進めた。

開設以来 31 年を経過した本館等の改築改修について、令和元年度後半の着工に向けて諸手続きを進めると共に、入居者の生活環境の改善、事故防止や職員負担の軽減等を考慮したレイアウトの検討を進めた。

事業所数 10 事業所

- ・ 特別養護老人ホーム 2 事業所、併設型短期入所生活介護 1 事業所
- ・ 通所介護事業 2 事業所
- ・ 認知症対応型通所介護事業 1 事業所
- ・ 訪問介護事業 1 事業所
- ・ 居宅介護支援事業 1 事業所
- ・ 地域包括支援センター 1 事業所
- ・ サービス付高齢者向け住宅 1 事業所

職員数 220 名 (平成 30 年度正規職員 採用者数 12 名 / 退職者数 9 名)

男女比 1 : 3

平均勤続年数 / 平均年齢 9.5 年 / 47.4 歳 平成 31 月 3 月末現在

基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的にに関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

活動状況



・ 主な活動ポイント

- 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催。

23項目の研修を延べ50日間実施し、延べ905人の職員が参加した。

今年新たに「企業内家庭教育講座」、「虐待防止対策研修」を実施した。

自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は 2名。

- 人材育成。定期的な面談を開始。

職能要件書職能評価シートを使用した面談を、年2回実施を推進した。

職種別のチェックが行えるようラダーの整備やチェックシートの整備を進めることができている。

- 安全衛生委員会を定期的に行い、職員の労働環境改善のための提案を行っている。

『整理・整頓の日』を活用することが定着し、不要品の数も減ってきている。

社会貢献活動



・主な活動ポイント

年間行事計画に基づき実施した。

○ 南星中学校交流会の受け入れ

昨年に引き続き、中学校を訪問し、車イスの使い方や認知症について等のレクチャーをすることで、理解を深めてもらうことができた。当施設内での利用者との交流の前に、「認知症について」「福祉用具の活用方法について」等を学び、ある程度の知識を持って交流することで良い効果があると学生や先生にも良い評判の声が聞かれている。

○ 小学生親子バスツアー・高校生等福祉の体験

富山県社会福祉協議会からの依頼により、福祉について広く知ってもらうために積極的にバスツアーを受け入れた。（小学生親子11組、高校生6名参加）

○ 蔵野町・荒見崎獅子舞共演会、福田公民館祭り

蔵野町・荒見崎獅子舞共演会を鳳鳴苑で行ってもらい、地域との交流を図った。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

<事業概況>

○入居者数 従来型 90名・ユニット型 40名

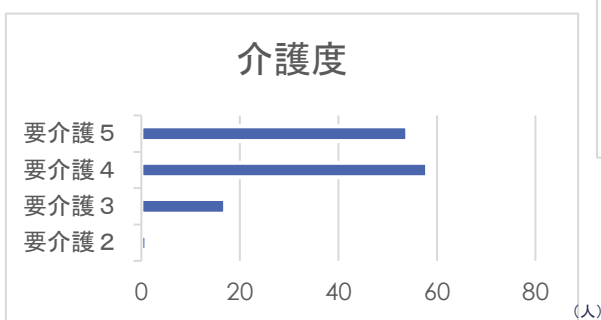
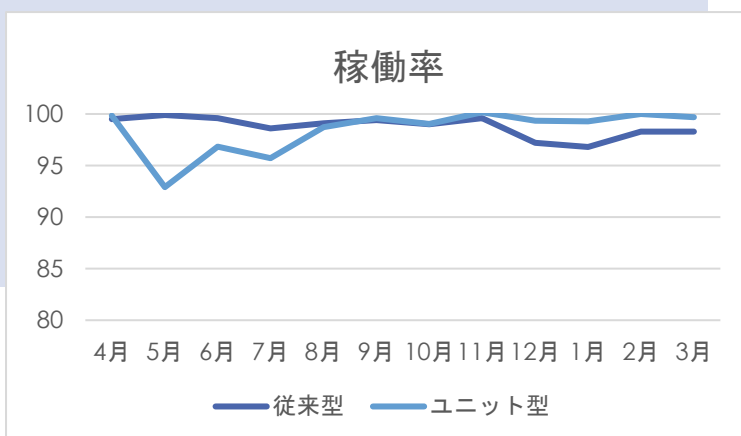
○年間稼働率 98.6%

○年間看取り者数 18名

○年間平均介護度 4.2

○年間平均年齢 88.7歳

○男性：女性 21名：109名



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 介護力向上の取り組みを通じて、各ユニットで排泄介護等のケア方法について個々の利用者への対応を検討してきた。またスキントラブル及び褥瘡委員会が中心となり、褥瘡の発生状況をデータ化し、改善への取り組み方法を進めてきた。
- ◇ 身体拘束及び不適切ケアについては、自分たちのケアを見直し、意識付け注意喚起を行い根拠のあるケア、相手を思いやるケアを目指したケアに向けて継続して取り組むように進めてきた。今後もさらに維持・向上できるように多職種で連携し対応していく。
- ◇ 家族懇談会では、「口腔ケア」をテーマに講演を依頼した。口腔ケアの重要性について深く理解してもらうことができ、口腔ケアに対する協力をお願いしやすくなった。

業務改善

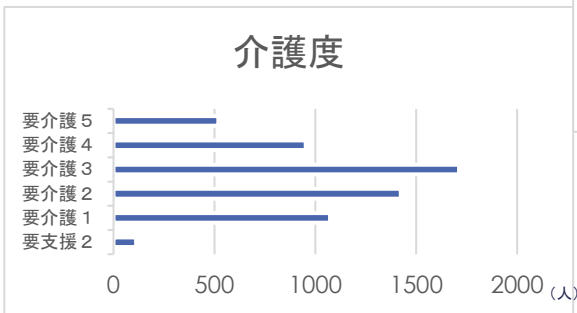
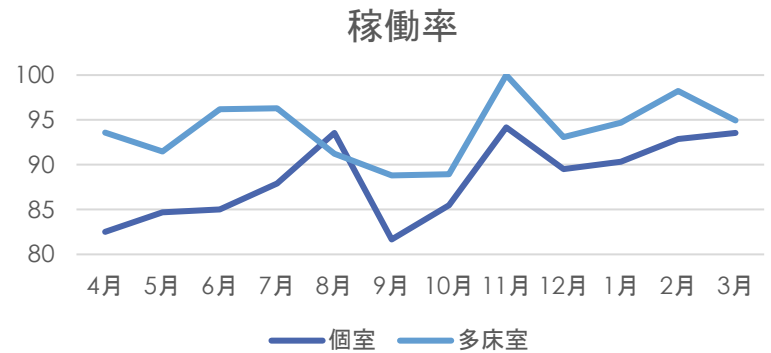
- ◇ KYTの取り組みを勉強会や委員会を通じて継続的に行っている。また、入所時の「リスク説明書」を使用し、引き続き理解を求めている。
- ◇ 多職種での情報共有のため、ワイズマンシステムのみではなく、kintoneの活用も継続して行っている。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

< 事業概況 >

- 定員数 多床室14名・個室4名
- 年間稼働率 92.7%
- 年間延利用者数 6,088名
- 年間平均介護度 2.7
- 1日平均利用者数 16.7人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 感染防止に対して、受け入れ時の検温や体調確認、退居時の情報提供を年間通して行った。また、利用中に変化が見られた場合は、隔離できる場合はすぐに隔離し、家族等と連携を図りスムーズな受診につなげている。
- ◇ 交通事故なく送迎を行えている。送迎時間の変更等についてはその都度連絡を行った。
- ◇ 利用者及びご家族の意向確認については、ケアプランや担当者会議、利用時等において随時確認した。

業務改善

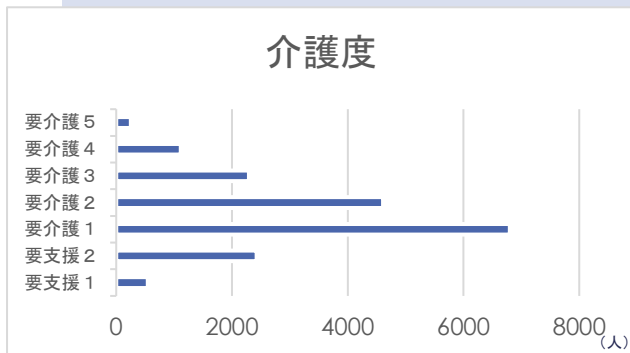
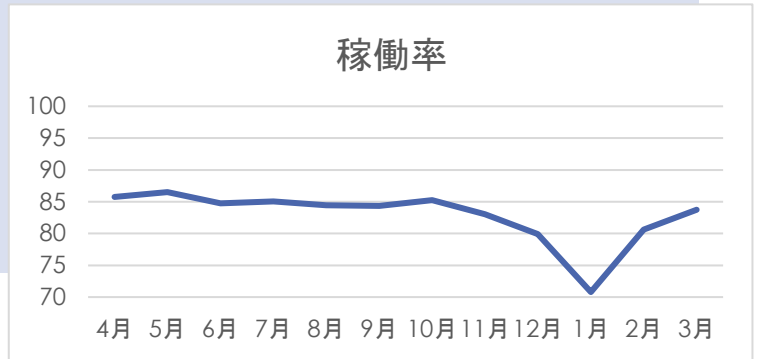
- ◇ 居宅介護支援事業所に定期的に伺い、空床情報・チラシを配布している。昨年度に引き続いた活動の成果もあり、稼働率も昨年度よりも約3%上昇した。



鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

< 事業概況 >

- 定員数 70名
- 年間稼働率 81.2%
- 年間延利用者数 17,520名
- 年間平均介護度 1.6
- 1日平均利用者数 56.9人



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 「介護予防・日常生活支援総合事業」と「すこやか運動教室」に関しては継続的に実施し、地域の方々とのつながりを維持してきた。「すこやか運動教室」の参加者には、講師の顔と名前が売りになり新規利用の獲得がしやすい状況である。
- ◇ 広報誌の配布やホームページを活用し新規利用者の獲得につなげている。専従の生活相談員を中心に月の初めには、実績提供と同時に空き情報の提供を行っている。

業務改善

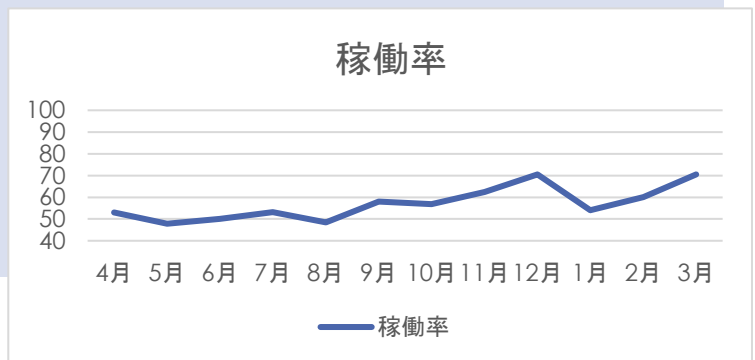
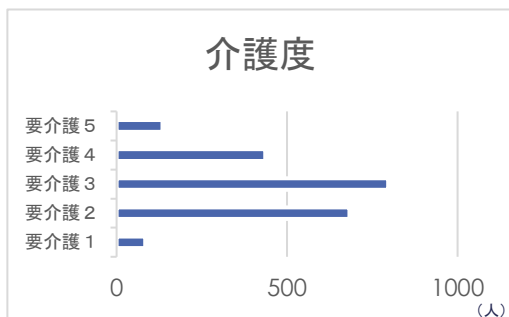
- ◇ 信頼される関係性に関しては、デイ会議などで利用者の情報共有に努めており、今後苦情などが発生しないように進めている。しかし、沢山の情報の共有が困難な為苦情などが上がってくることがある。その都度慎重な対応に努めている。
- ◇ 年間稼働率 86%を目標にと努めてきたが、生活相談員（専従）の交代などがあり、定着した新規利用者の獲得に努める体制の構築が困難だった。専従（1人）及び兼務（2人）の生活相談員3人の体制で情報の共有に努め新規獲得に向けて随時対応している。



鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

<事業概況>

- 定員数 12名
- 年間稼働率 57.7%
- 年間延利用者数 2,134名
- 年間平均介護度 2.9
- 1日平均利用者数 6.9人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 季節に合わせて海や山にドライブに行き気分転換を図り心の安定する時間を作るよう努めた。送迎範囲も広げ、利用者様の希望に沿った時間に配慮した。
- ◇ 認知症の理解が難しく、接し方の統一が出来ていなかったが、会議の中で話をする事で段々と利用者様個々の認知症への理解が深まった。
- ◇ 年2回の運営推進会議を7月と2月に行い、「食事を美味しく取る前に」、「認知症の理解を深めよう」というテーマで開催した。地域の方、ご家族様と事業所との情報共有の場となった。

業務改善

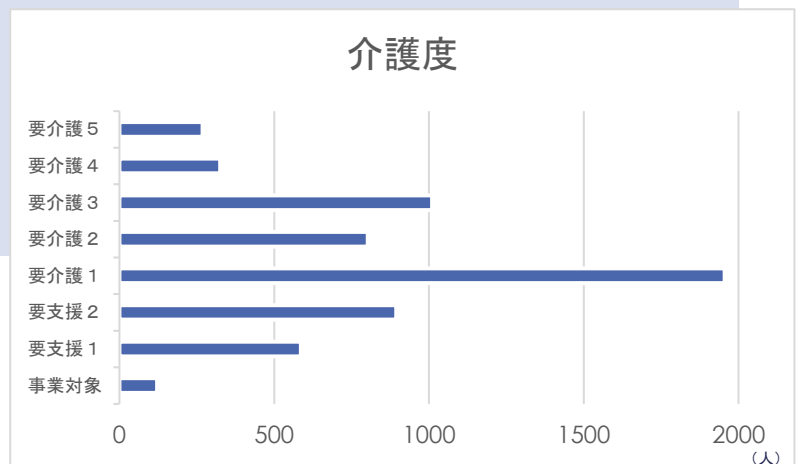
- ◇ 1日平均利用者数は7人程、年間稼働率は57.7%に留まった。営業を行ったことにより利用実績のない事業所より新規の依頼を受けた。また、紹介実績のある事業所ではケアマネジャーと情報共有に努めた。
- ◇ 今年度パンフレットや空き情報をリニューアルし、月2回の営業活動に力をいれた。利用実績のない事業所からの依頼もみられた。



鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

<事業概況>

○年間延利用者数	5,824名
身体介護延利用者数	2,294名
身体生活延利用者数	7名
生活援助延利用者数	2,054名
その他	1,436名
○年間平均介護度	1.7
○平均利用回数	16.4人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 平成29年4月より、介護予防・日常生活支援総合事業に参入し、より多くの利用者様の自立支援に向けて、多職種との連携を図り、適正なサービスを提供できるように働きかけた。
- ◇ 総合事業の受け入れを多く行ってきたことで、総合事業から介護に移行になり、サービスの追加等で利用が増えるケースもあった。

業務改善

- ◇ 事業所周りを行う際に、担当者を決めて行ってきたことで、信頼関係を少しずつ築くことができ、新規獲得にも繋がった。
- ◇ 随時各事業所に情報提供をおこない、サテライト事業所（高志の郷内）も有効活用し、新規利用の獲得につなげた。

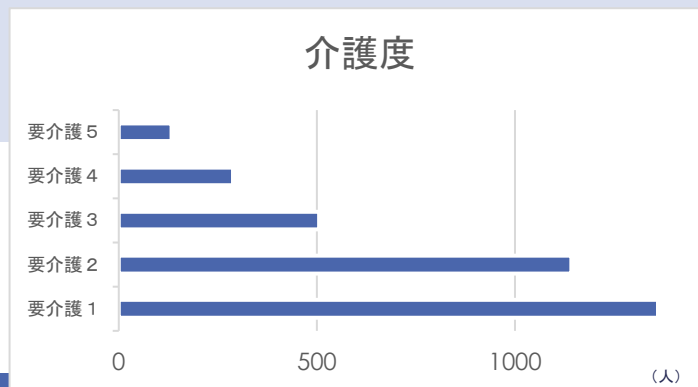
在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

<事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 3,512件

○月間一人当たり作成件数 31.9件

○年間認定調査件数 221件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 利用者の尊厳を保持しながら、その意向を確認し、自立支援に努めてきた。住み慣れた地域で長く住めるよう、各関連機関や地域の方々との連携を密にすることで、在宅生活期間の延伸に繋がった。
- ◇ 予防プランは、利用者や家族の意向を受けて適切に受託し、契約締結した地域包括支援センターの数を増やした。一定の担当件数を維持した。
- ◇ 新規・継続の利用者には必ず複数のサービス事業所を紹介し、利用者の利益となることを優先にケアマネジメントを実践した。

業務改善

- ◇ ワイズマンやキントーン、高岡多職種連携システム等現在使用しているシステムを運用し、ある程度は業務時間の効率化に繋がった。
- ◇ 特定事業所加算Ⅱの継続及び初回加算等算定以外に、介護保険改定に伴い変更となった退院・退所加算を積極的に取得した。今年度取得が困難であったターミナルケアマネジメント加算を算定しやすくするために、年度途中で重要事項説明書等書類の見直しを行った。
- ◇ 病院や各地域包括支援センターとの有機的な連携は堅調で、新規獲得数は昨年度並みではないものの、給付管理件数は過去最多となった。

木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

<事業概況>

○年間相談件数 2,269件

○1日平均件数 9.5件

<活動状況>

サービス向上

- ◇ 高齢者が多様な生活支援・介護サービスが利用できるような地域づくりを目指し、生活支援・介護予防体制の整備、充実に努めた。
- ◇ 基本チェックリストの活用により総合事業対象者の該当の可否を確認し、適切なアセスメントを実施した後にケアマネジメントを行った。
- ◇ 地域の高齢者が主体的に集まり、介護予防を目的とした自主活動の立ち上げに向けて働きかけを行った。既存の活動については、定期的に複数の職員で訪問し継続支援を行った。
- ◇ 必要な支援がスムーズに受けることができるよう医療機関との連携を図った。

推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

◇ 包括的支援事業

地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業

ネットワーク構築事業

◇ 地域ケア会議推進事業

地域ケア会議開催業務 年8回

◇ 生活支援体制整備事業

支えあう地域づくり会議（年5回）、情報誌の作成

◇ 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防ケアマネジメント事業・特化型プログラム・地域における介護予防活動支援

普及啓発型プログラム（生きがい湯ったり事業・元気はつらつ倶楽部）

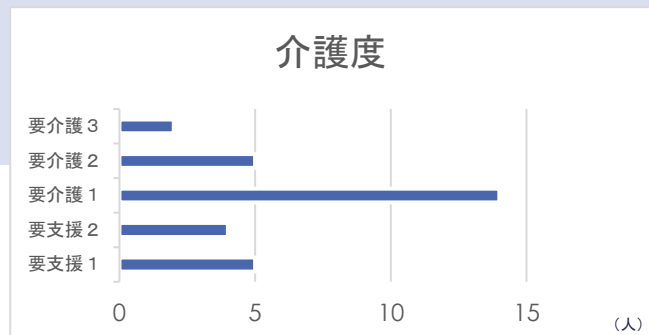
サービス付高齢者向け住宅高志の郷

<事業概況>

○居室数 45室

○平成31年3月末時点

入居数47人 44室（空1室）



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 施設設備の破損や異常については速やかに修繕を行い、危険な個所がないよう日々点検を行い、入居者の皆様の安全確保に努めた。
- ◇ 協力医療機関（林内科医院、ほんごうハヤシ整形外科クリニック）と連携し、入居者の皆様の健康面でのサポート強化に努めた。
- ◇ 高志の郷災害対策委員会にて災害マニュアルの整備、年2回（4月、11月）の夜間想定での火災避難訓練の実施等、災害時に職員が迅速な対応が出来るように努めた。
- ◇ 定期的に、メフォス（給食委託業者）、鳳鳴苑調理課、高志の郷で会議等を開催し、より充実した食事やサービスを提供出来るよう努めた。
- ◇ 入居者の皆様からの要望や苦情を、日々の生活相談等により把握し、より充実したサービスの提供につながるよう努めた。

業務改善

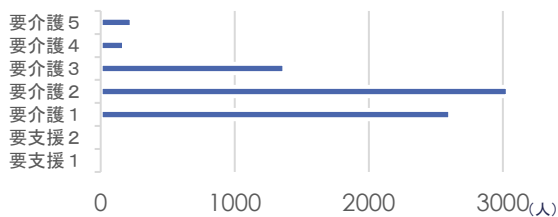
- ◇ 入居者の皆様に長期定住して頂けるように、安心した日常生活が過ごせるように努め、さらには日常生活の充実を図るような催し物を実施し入居率の安定化に努めました。
- ◇ 節電や節水を心掛けコスト削減に努めた。
- ◇ 入居希望者の方や関係機関等（居宅介護支援事業所や地域包括支援センター）への情報提供を行い新規の入居につなげていくことに努めた。
- ◇ 生活相談を通し日々の生活に対する要望や問題点に即時に対応し、快適な生活環境を提供出来るように努めた。

高志の郷デイサービスセンター

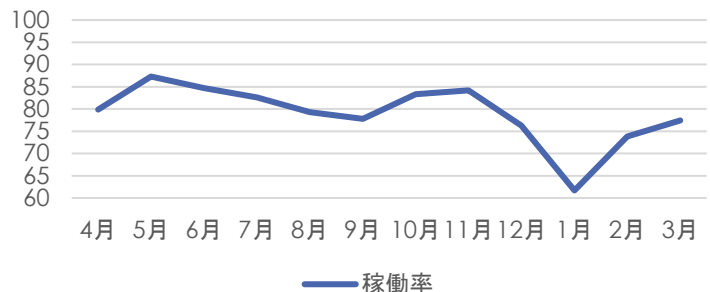
<事業概況>

- 定員 30名 営業日数 308日
- 年間稼働率 80.3%
- 年間延利用者数 7,425名
- 年間平均介護度 2.1
- 1日平均利用者数 24.1人

介護度



稼働率



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 中重度の方の受け入れは積極的に行っていたが、登録利用者数に大きな変動はなく、稼働率も年度を通して上がらなかった。しかし、難しいケースでも可能な限り受け入れをする姿勢がケアマネジャーにも浸透してきていると感じている。
- ◇ 利用者や家族からの希望には可能な限り対応するように努めている。アンケート調査についてはまだ実施できていないが、今後実施したいと考えている。
- ◇ 利用者の移動や活動の妨げとならないよう設備点検や備品配置等に配慮し、日常的な整理整頓を心がけ、安全に利用できる環境を作るように努めた。
- ◇ ベッド配置の見直し、スライディングボードの購入など、職員の身体への負担軽減となるように作業環境の整備、改善及び機能的な福祉用具の導入を適宜行うよう努めた。

業務改善

- ◇ ケアマネジャーと積極的にコミュニケーションをとり、情報の交換、共有を図ると共に、可能な限り要望に答えることで、信頼関係を築くように努めた。
- ◇ パンフレットの見直しを行い、設備、機能訓練、活動の詳細を記載して内容がわかりやすいものになるよう作成を進めた。
- ◇ 移乗などの動作が多くなってきたことを受け、腰痛予防のための勉強会の開催や、スライディングボードなどの福祉用具の導入を進めている。